

総目次

第一号—第二五号（一九五五年—一九八八年）

第一号（一九五五年）

寒地文化都市中産家庭に於ける冬期食料貯蔵の小観
察 林 敏雄

Jude the Obscure as Hardy's Turning-Point

Shinichi Takaku

第二号（一九五六年）

時間と永遠—死後問題の一考察

詩の緊張度—E.A. Robinson の場合

村岸清彦
高久真一

遡向抑制に関する一研究

女子学生の学生生活時間調査について

永田勝彦
此下ふみ

第三号（一九五七年）

悪の研究

エミリ・ディキンソン詩抄（訳）

資料「スバル」総目次

遡向抑制の分析的研究—学習程度と再生について

村岸清彦
高久真一
岩城之徳
永田勝彦

第四号（一九五八年）

復讐律の倫理性—律法の倫理的性格についての考察の断片

山崎保興

エミリ・ディキンソンの逆説
乳幼児の睡眠状態と発育について—発育と環境に関する研究第六報

高久真一

田坂重元
人參が幼児の発育に及ぼす効果—発育と環境に関する研究第十一報

田坂重元
色彩の嗜好と象徴的意味の関連性について

第五号（一九五九年）

フロストの魅力

高久真一

William Blake の詩に現れた Divine Image への考察

吉田道子

概念的色彩について
発芽コムギ胚におけるアスコルビン酸含量及び酸化還元電位について

永田勝彦
寺岡宏
渡会彰彦

第六号（一九六〇年）

大脳と心—精神の独立性
旧約に於ける祭儀の律法

村岸清彦

バラッドに於ける繰返し的手法
春化处理期間中におけるコムギ胚の組織化学的研究

高久真一

第七号（一九六一年）

コムギ胚における炭水化物代謝

寺岡宏

フロストの詩に於ける暮色
発芽コムギ胚におけるサツカラーゼ活性について

高久真一

第八号（一九六二年）

イスラエルに於ける祭儀の伝統
適及抑制因子の機能について

寺岡宏

使徒教父における聖餐観の一問題
発芽及び春化处理過程におけるコムギ胚の窒素代謝（その一）

加藤邦雄

寺岡宏

Katherine Anne Porter

佐藤俊子

Social Background of Social Casework Around

the Early 19th Century

Eiji Matsumoto

第九号 (一九六二年)

発芽および春化過程におけるコムギ胚の窒素代謝について(その3)

寺岡 宏

植物性食品の灰分の研究(その1) 今宮 春枝

寺岡 宏

トマトとイヌホウズキのキメラの代謝的研究(その2・3)

熊谷 孝美
宇佐美 正一郎

女性作家とその世界—Jane Austen の場合

佐藤 俊子

「模型」について

中川 治子

Psychological Maladjustment in Musical

Activities Takeshi Kurokawa

第一〇号 (一九六四年)

第十号紀要の発刊にあたって

手島 寅雄

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について(その4)

寺岡 宏

トマトとイヌホウズキのキメラの代謝的研究(その

4)

熊谷 孝美

Phenylthiocarbamide を中心とした味覚の研究 三浦 春恵

Studies of the Ash of Vegetable Foods

II. Comparison of Summer Spinach with Winter Spinach in Respect to Ash Content and

Alkalinity Harue Imamiya

Hiroshi Teraoka

マルコ福音書およびQ資料における「人の子」に関する一問題点 加藤 邦雄

教員養成大学における音楽科教育課程の試案

黒川 武

Renaissance における舞台の形式—ジャンルの混淆から分化へ

佐藤 俊子

初期の作品を中心としたエミリー・デッキンソンの技巧

真柳 節

第一一号 (一九六五年)

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について(その5)

寺岡 宏

発芽期における春まきおよび秋まきコムギの生長変

化について

熊谷孝美

荒磯純子

トマトとイヌホウズキのキメラの代謝的研究(その5)

熊谷孝美

植物性食品の灰分の研究(その3・4)

今宮春枝

蔗糖溶液濃度の嗜好性についての研究

三浦春恵

被服材料の保温性の研究(その1)

寺岡宏

若山初子

日本古代服飾と西アジア古代服飾の關係についての考察

寺岡宏

高野和子

American Unitarianism up to the Transcendentalist Age

Tsunao Ohyama

教会・その聖書的指向

三枝礼三

中世における舞台の形成—中世劇と民衆生活

佐藤俊子

Emily Dickinson—そのSummer Poem について

真柳節

第二号(一九六六年)

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について(その6・7)

寺岡宏

蔗糖水溶液の嗜好濃度について(その1・4)

三浦春恵

被服材料の保温性の研究(その2)

寺岡宏

歴史的地理的背景に観る世界衣服着装形式の移行及び変遷の研究

寺岡宏

聖書における女性の位置

高野和子

Renaissance 期における舞台の形成—イギリスの場合

三枝礼三

佐藤俊子

第三号(一九六七年)

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について(その8)

寺岡宏

水道水および地下水の水質の季節的変動

熊谷孝美

蔗糖水溶液の嗜好濃度について(その5・6)

三浦春恵

寺岡 宏
被服材料の保温性の研究(その3) 若山 初子

寺岡 宏
日本の服飾の研究—紋章について 若山 初子
札幌市における母子家庭の栄養調査成績(予報)

藤井 いづ子
『よきサマリヤ人』について 三枝 礼三
ニュー・イングランドとアルミニウム(上)

大山 綱夫
ギリシャ・ローマにおける舞台の形成—円形舞台の
秘儀 佐藤 俊子

Some Psychological Aspects in the Process of
Foreign Language Teaching and its Acquisition
Akira Kirikoshi

第一四号(一九六八年)

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について(その9) 寺岡 宏

蔗糖水溶液の嗜好濃度について(その7・8)

三浦 春恵
寺岡 宏

札幌市における母子家庭の栄養調査成績(第二報)

藤井 いづ子

被服材料の保温性の研究(その4) 若山 初子

寺岡 宏

日本の服飾の研究—紋章について(その2)

若山 初子

「家庭経済学」考—労働力の再生産理論について

山本 順子

被服構成学の生成—史的考察への試論

福山 和子

歴史的・地理的にみた衣服着装形式

福山 和子

Some Aspects in Aural Comprehension and
Aural Perception Tests in English

Akira Kirikoshi

Emily Dickinson — 「死」をテーマにした作品について 真柳 節

十七世紀後半における舞台の形成—大世紀及び王制

復古朝の演劇について

佐藤 俊子

第一五号 (一九六九年)

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について (その10) 寺岡 宏
蔗糖水溶液の嗜好濃度について (その9)

三浦 春恵
寺岡 宏
札幌市における母子家庭の栄養調査成績 (第三報)

藤井 いづ子
被服材料の保温性の研究 (その5-7)

若山 初子
寺岡 宏
日本の服飾の研究—紋章について (その3)

若山 初子
被服構成学の生成—教育の変遷から見る被服構成学へのアプローチ
福山 和子
生計費分析における近代化指標の検討と批判

山本 順子
北海道私鉄バス労働者世帯の生計費

伊藤 セツ
足立 恭子
ニュー・イングランドとアルミニウム—大覚醒

との関連

大山 綱夫
《Πλωτος》の可能性の予備的解釈学的作業

雨貝 行磨

One Aspect in English Teaching—A Feeling for the Language
Akira Kirikoshi

EPL (English Proficiency Level) TESTの結果

稲川 侑子

Emily DickinsonのParadox について

真柳 節

十八世紀前半期のイギリスにおける舞台の形成—市民劇の成立
佐藤 俊子

第一六号 (一九七〇年)

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について (その11) 寺岡 宏

魚貝類の鮮化度に関する研究 熊谷 孝美

蔗糖水溶液の嗜好濃度について (その10)

三浦 春恵

寺岡 宏

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の炭水化物代謝
高井 稜

野菜のビタミンCに関する研究

寺岡 宏
伊藤 彰子
熊谷 孝美

被服材料の保温性の研究(その8・9)

若山 初子
寺岡 宏

日本の服飾の研究—紋章について(その4)

若山 初子

被服構成実習における縫製技術指導計画

福山 和子

家庭経済学考—労働力再生産理論について

山本 順子

「共働き世帯」の生計費

伊藤 セツ
足立 恭子

歴史学における精神分析学的方法論を巡って

大山 綱夫

十八世紀後半期における市民劇の発達

佐藤 俊子

第一七号(一九七一年)

発芽および春化処理過程におけるコムギ胚の窒素代謝について(その12)

寺岡 宏

蔗糖水溶液の嗜好濃度について(その11)

三浦 春恵

被服材料の保温性の研究(その10・11)

若山 初子

寺岡 宏

被服構成実習のカリキュラム編成について—学習者の期待を中心に(その1)

福山 和子

ドイツ社会民主主義の発展過程における婦人問題にかんする理論と政策の展開

伊藤 セツ

十九世紀前半期におけるイギリス演劇

佐藤 俊子

第一八号(一九七三年)

家計費目分類の理論的検討について

伊藤 セツ

紋章の研究(その5)

若山 初子

被服構成実習のカリキュラム編成について—学習者

の期待を中心に(その2)
聖書における神の父性について
福山和子
三枝礼三

第一九号(一九七七年)
創立二十五周年記念号

発芽および春化处理コムギ胚の代謝活性におよぼす
温度の影響
寺岡宏

蔗糖水溶液の嗜好濃度について(その12・13)

三浦春恵
寺岡宏

被服材料の保温性の研究(その12)

寺岡宏

紋章の研究(その6・7)

若山初子
若山初子
佐藤俊子

十九世紀後半期のイギリス演劇

第二〇号(一九七八年)

旧約聖書の児童像

三枝礼三

第一次世界大戦下の芸術運動—ディアギレフ・パレ

エの場合

佐藤俊子

変形規則の義務的・随意的について

志関義昭

被服材料の保温性の研究(その13)

寺岡宏
若山初子

第二一号(一九八一年)

北海道の文学とキリスト教

三枝礼三

第一次世界大戦後の芸術運動—セルゲイ・ディアギ

レフの場合

佐藤俊子

The Same Side Filter について

志関義昭

コムギ春化处理に影響をおよぼす諸要因について

寺岡宏

被服材料の保温性の研究(その14)

寺岡宏
若山初子

第二二号(一九八三年)

コムギの花芽形成に対する低温と長日の作用

寺岡宏

開拓農民の食生活の一考察

三浦春恵

被服材料の保温性の研究(その15)

田中久美子
高杉直幹

寺岡宏

若山初子

北海道衣生活文化史の調査研究—伊達市篠原家所蔵の
手板紙と藍作史・歌棄田佐藤家所蔵衣服の調査
報告
福山和子

Men and Gods in Greek Tragedy—Sophocles’

“The Oedipus Coloneus” Hiroshi Takahashi

ドストエフスキーとキリスト教 三枝礼三

複合名詞句としての文主語 志関義昭

第二三号(一九八五年)

ドストエフスキーにおける「ケノース」の意義に
ついて 三枝礼三

Robert Frost の現代性 真柳節

スタイナーの日本地方自治論(1)—近世・明治前

期 蓮池穰

北海道衣生活文化史の調査研究—残存陣羽織につい
て 福山和子

立上り拔重でのパラレル操作に関するバイオメカニ
クス的研究 佐々木敏

西薊秀嗣

須田力

三宅章介

加藤満

見戸長治

井上修吾

被服材料の保温性の研究(その16)

寺岡宏

若山初子

長日植物の開花に対する低温と日長の作用について

寺岡宏

An Approach to English Composition for
College Freshmen in an EFL Situation

Torkil Christensen

北星短大生の英語習熟度—能力テストからの考察

清瀬健

第二四号(一九八七年)

Jane Austen

Toshiko Sato

ナサニエル・ホーソン研究—ピュリタニズムとロマ
ン主義 棚瀬 江里哉

Student Attitudes to Non-Japanese Language
Instructors in Japan Torkil Chrestensen

海外語学研修とL1授業にみる英語聴解力の変化

清瀬 健

市民宗教研究(序説)—R.N.Bellahの所論をめぐつ
て 櫻井義秀

社会学理論とその応用に関する一考察—青井和夫

『社会学原理』を中心に 櫻井義秀

紋章の研究(その8) 若山初子

鶏卵を用いた皮蛋(Pidan)の製造に関する研究

清瀬 久美子

アサガオのエーテル抽出液のガスクロマトグラフィー
による分析 寺岡 宏

映像解析における射影変換処理の実用化とその課題

佐々木 敏

角田 和彦

第二五号 (一九八八年)

小説の変貌 (一九〇〇年代—一九四〇年代)

佐藤 俊子

ラース・ウデー「社会学における理論と実践の危
機」(紹介) 櫻井義秀

ドナルド・G・ジョーンズ「市民宗教と公民宗教」

(紹介) 櫻井義秀

紋章の研究(その9)

オーストリアの料理・菓子 若山初子

清瀬 久美子

(付)

第十号紀要の発刊にあたって

学長 手島 寅雄

本学は創立以来、早くも十三年を経過し、多くの
卒業生を社会に送り出しましたが、この間教職員は
女子の教育に専念する傍、一般教育科目や専門科目
の各分野において、各々独特の研究を続け、その結
果については本学の紀要としてすでに九回に涉って、
毎年発表してきました。短期大学は本年六月に教育

法の一部改正により、今後恒久的制度として新発足することになりました。この画期的な年にあたって本誌の第十号を発刊して、さらに新研究の業績を発表することになりましたことはまことに意義深いものがあり、本学に対する社会の期待に沿うものとして喜びに堪えません。この紀要が今後ますます発展して、教職員の研究発表の機関誌として堅実な歩みをたどるよう念願し、併せて本紀要が、わが国の学界並びに教育界のため寄与貢献することができまよう願うものであります。

(第十号・一九六四年)